

家畜衛生情報

九州(熊本)で牛のアカバネウイルスの 生後感染を疑う異常子牛・育成牛が続発!

平成18年11月

発生状況

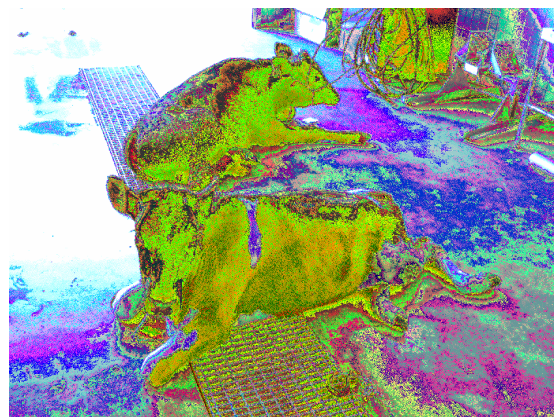
- 9月上旬以降に熊本県において飼養されている牛に継続的に発症(現時点で約80頭を確認)
- 発症牛の大部分が1歳以下
- ホルスタインでの発生が多いが、品種間の感受性に差があるかは不明

臨床症状

- 中枢神経麻痺、特に後肢麻痺による虚脱または球節のナックルを示す個体が多い
- 麻痺は片側性、両側性の双方が認められる
- 元気、食欲には異常を認めない個体が多い

検査所見

- 剖検上、骨格異常、大・小脳欠損等は認められないが脳脊髄液の増量が認められることがある
- 病理検査により非化膿性脳炎が確認され、PCR検査においてアカバネウイルス遺伝子を検出
- 一部の牛の脳材料からアカバネウイルスが分離され、動物衛生研究所九州支所でウイルスを確認中



上に示すような異常な症状の子牛・育成牛が出た場合は、市村の畜産課(担当)又は家畜保健衛生所に連絡を下さい。

飛驒家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111 FAX32-9019

E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp